

東京都立武蔵高等学校
同窓会事務所
〒180-0022
武蔵野市境1-3-4
エーブル武蔵境203
Tel & Fax 0422-27-7571



54

2019. 5.10



革造形「深海」 まつだ みちこ さん(21回生E組)の作品 W25×D15×H40cm

今年のホームカミングデイは31回生&51回生

今年の同窓会総会・懇親会

日 時：6月2日(日)
受付開始12時30分 総会13時30分より
場 所：武蔵野スイングホール(武蔵境駅北口より徒歩2分)
アトラクション：小田 富英さん(20回生F組)による講演
懇親会：15時30分からレインボーサロン
会 費：一般会員3,000円
学生会員1,000円
新卒会員 無料
出 欠：ご出席の方は、同封のハガキでお知らせください。

平成30年度卒業生同窓会新幹事



日本の海を守る二人の卒業生— 来年は母校創立80周年

東京都立武蔵高等学校同窓会会長 土屋 正忠



海上保安庁長官岩並秀一さんと水産庁長官長谷成人さん、日本の海を守る二人は母校の卒業生です。日本の海を守る責任者が偶然ですが二人とも卒業生とは大いに愉快的なことです。母校は昭和15年1940年府立第十三高女としてスタートしました。来年の東京オリンピックの2020年には創立80周年を迎えることとなります。卒業生は25,000人を超え、政治家、経済人、公務員や教員、医療福祉、学問、演劇や音楽芸術、宗教界で活躍する人等に極めて多岐にわたり人材を輩出してきました。その象徴が海を守る二人です。心から敬意を表します。私は昭和35年卒業の第12回生ですが、卒業当時は1回生でも30歳前後でしたので、改めて歳月の重みと母校が順調に発展してきたことを実感いたします。

卒業後の私達の人生は長くその道程は波乱に満ちています。各界で活躍し脚光を浴びる人もいれば、一方各々の場で地道に充実した日々を送っている方も大勢います。時には健康を損ねたり不遇に耐えるときもありましょう。どんな苦しい時も輝かしい時も青春を過ごした母校の三年間を振り返り改めて一歩を歩みだそうではありませんか。青春は永遠です、人生の土台です。母校が歴史を重ねると共に同窓生が各界で活躍することを、ともに喜びたいと思います。

同窓会の役割は同窓生のネットワークと親睦、現役支援の二つです。この二つの役割を果たすために役員一同力をあわせて運営にあたることをお約束いたします。

6月2日(日)同窓会総会でお目にかかりましょう。お待ちしております。

今年の同窓会は6月2日 仲間を誘って、武蔵野スイングホールへ集合！

今年の同窓会総会は令和改元後初、6月2日(日)、武蔵野スイングホールで開催いたします。総会後のアトラクションでは小田富英氏(20F)(柳田国男研究者)による、「柳田国男を追って四十七年—柳田国男の年譜作成の話題から—」の講演を企画いたしました。詳しくは次頁をご覧ください。また今年には31回生(昭和54年卒)と51回生(平成11年卒)のホームカミングデイが開催されます。それぞれ卒業40年、20年の節目の年にあたります。多くの同期生が懐かしい顔に出会えるよう、ふるってご参加ください。

日 時：令和1(2019)年6月2日(日)

受付開始：12時30分 総会：13時30分

場 所：武蔵野スイングホール 東京都武蔵野市境2—14—1

総 会・アトラクション 2Fスイングホール

懇親会・ホームカミングデイ 11Fレインボーサロン

今年のアトラクション

『柳田国男全集』編集委員、日本地名研究所『地名と風土』編集長
小田 富英さん（20回生F組）による講演

「柳田国男を追って四十七年—柳田国男の年譜作成の話題から—」



私などが出る場ではないと躊躇したのですが、この三月に長年書き込んできた「柳田国男年譜」を、『柳田国男全集』（筑摩書房刊）別巻Ⅰとして刊行することになりましたので、宣伝のつもりでお引き受けしました。騒然とした学生時代に会った後藤総一郎、小学校教員の大先輩庄司和晃という二人の恩師と、柳田国男研究会、常民大学、全面教育学研究会などの多くの仲間を支えられ、この歳になってようやく一人前になれた感じがしています。柳田国男を読み続けて47年、細くても長く続ければその真髓に少しは触れることができるものだという私なりの実感を後輩の皆さんに伝えたいと思います。私の原稿に厳しいチェックを入れてくださった筑摩書房校閲室の石井慎吾さんが、33回生という偶然の出会いも勇気づけられました。当日、石井さんにもお越しいただき、共に宣伝できたらと思っています。皆様との出会い、再会を楽しみにしています。

〈略歴〉

東京学芸大学卒。東京都公立小学校教員を36年勤め（うち武蔵野市20年）2009年退職。その後、作新学院大学特任教授を経て、現在、肩書きの他、遠野市遠野文化研究センター研究員、朝日カルチャーセンター立川教室講師などで活動中。共著に、『柳田国男伝』（三一書房）『犯罪の民俗学 2』（批評社）『わいわい学級』（現代書館）『地域に根ざす民衆文化の創造—「常民大学」の総合的研究—』など。「柳田国男年譜」『柳田国男全集』別巻Ⅰを3月に刊行。

2018年度 同窓会総会・懇親会報告



平成30年6月3日（日）、武蔵野スイングホールにて第72回同窓会総会を開催いたしました。昨年は、役員改選がない年にあたります。総会は、土屋正忠会長と来賓の都立武蔵高等学校 高橋校長の挨拶に始まり、29年度事業報告、決算・監査報告、及び30年度予算案、事業計画案の提案があり、すべて承認されました。

総会後のアトラクションでは、舞台俳優の金子あいさん（39回生E組）に、「平家物語～語りと波紋音」をわかりやすく前解説していただき、全国公演でコンビを組んでいる打楽器奏者の永田砂知子さんと一緒に演じていただきました。また、懇親会・ホームカミングデイには30回生・50回生を中心に合わせて170名余りが参加し、世代を超えて旧交を温める時間となりました。

お元気ですか 教員・会員の消息

昨年は私にとって仕事山盛りの年でした

水産庁長官 長谷 成人さん(28回生C組)



昨年末には、国際捕鯨委員会から脱退し、本年7月から商業捕鯨を30年ぶりに再開することにしました。科学的根拠に基づき持続的に資源を利用する限りにおいて、各

国はそれぞれの食文化を尊重すべきとの考えに立った判断です。委員会は変質し機能不全状態ですが脱退はしてもオブザーバーとして参加しつつ、寛容な国際社会を目指し、持続的利用支持諸国と協力し、この考え方を国際社会に発信していく考えです。

その前、12月8日には、土屋同窓会会長の勧めに従い、武蔵高校の附属中学の生徒360人に「地球学」としてウナギとマグロの資源管理について講義する機会を得ましたが、実はその日の未明、国会において漁業法等の水産改革法案が成立した当日でした。この法律は、漁業について水産資源の底上げを図り、養殖については頑張る漁業者を後押ししながら、必要に応じて外部の企業との連携や参入も促していくことなどを柱とする水産改革を進めようとするものです。

水産政策は大きな転換点に立っていますが、改革を進める中で水産資源を回復させようとするれば、漁業者

にもある程度の我慢をしてもらう必要があります。でも、その際同じ資源を外国漁船が乱獲しているようでは国内漁業者の理解は得られないという難しい状況があります。一例ですが、近年日本海において北朝鮮漁船が我が国水域に侵入しようとする動きが頻発しています。このため、水産庁では海上保安庁とともに、これを防ぐ取締を強化していますが、そんな時、海上保安庁の長官が同窓の岩並さんであるのは心強く、その奇縁に感謝しています。

高校時代の思い出の多くは、サッカー部でのものです(妻の美子はその時のマネージャー)。2月1日から2日の深夜にあったサッカーのアジアカップ日本対カタールの決勝戦は、妻は早々に眠りに落ちてしまいましたが、ラインでグループを作っている当時のチームメイトと一喜一憂コメントし合いながらのテレビ観戦でした。結果は1-3の敗戦でがっかりでしたが、還暦過ぎてこんなことができる仲間を得たのが武蔵時代の一番の財産です。



北朝鮮漁船に放水する水産庁取締船 遠方に海保巡視船

31回生

ホームカミングデイへのお誘い

1979年(昭和54年)に武蔵高校を卒業して早いもので40年が経ちました。本年6月の同窓会では我々31回生が40年目を迎えるホームカミングデイとなります。

同窓会総会に引き続き31回生の大同窓会も開催する予定です。なるべく多くの方にご参加頂き、旧交を温めると共に人生100年時代といわれる中で自分を振り返るいい機会となるでしょう。多くの方のご来会を心待ちにしております。

31回生幹事一同

お元気ですか 教員・会員の消息

海上における法の支配を目指して

海上保安庁長官 岩並 秀一さん(29回生G組)



生まれ育った東京を離れ、広島県呉市に所在する全寮制の海上保安大学校に入学したのは、自由闊達であった都立武蔵高校での生活の反動で

あったかもしれません。以来、海上保安官として、全国津々浦々、海外も含め15回の転勤を経ながら巡視船や陸上部署での勤務を続けてきました。

戦後発足し、昨年70周年を迎えた海上保安庁も私が勤務を始めた昭和56年当時は国内での知名度も低く、よく自衛隊員と間違えられたものでした。その後、潜水士や特殊救難隊員をモデルにした映画「海猿」の効果により、海難救助や海上犯罪の取り締まり等、海の安全と治安を守る組織であることが少しずつ知られるようになってきました。いわば海上保安官は、海の警察官であり、海の消防士といったところでしょうか。更には、巨大地震の予知に欠かせない海底地殻変動の観測や海図の作成、灯台等の航路標識の維持・管理といった業務も海上保安庁の仕事です。

そして、最近では、尖閣諸島周辺での領海警備、日本海での外国漁船による違法操業への対応、排他的経済水域内での外国海洋調査船への対応といった領海や海洋権益の保全に関する業務が大きなウェートを占めるようになってきました。領域や海洋権益を巡る国家間摩擦が多発する時代にあって、摩擦の拡大を防止し、力の支配ではなく、国際法、国内法に準拠した法の支配する海洋秩序を守ることが海上保安庁の大きな使命になっていると考えています。そのため、各国の海上法執行機関(コースト・ガード)との連携も深めているところです。また、外国漁船による違法操業の取締り等に関しては、28回生の先輩である水産庁の長谷長官と連携して対応に当たっています。

武蔵高校時代の思い出といえば駅伝です。当時、陸上競技部に所属し、長距離を走っていましたが、インターハイ級のチームメイトが揃った2年生の時に、東京都の予選で6位に入賞し、関東大会に出場することができました。都立高校としては13年ぶりだったことを覚えています。3年生になっても2年連続関東大会出場を目指し、秋の都大会に向けて練習を続けていましたが、残念ながら7位で予選敗退となりました。その年の関東大会当日が海上保安大学校の受験日だったので、6位入賞していれば、別の道を歩んでいたかもしれません。人生とは不思議なものです。

51回生

ホームカミングデイへのお誘い

1999年に武蔵高校を卒業して、早いもので20年となります。武蔵高校同窓会では、6月の総会後に行われる懇親会の中で、卒業後20・40年目のホームカミングデイがあります。今年は31回生と私たち51回生の番で

す。ぜひ、懐かしの土地である武蔵境に集まって、思い出話に花を咲かせてみませんか？

部活と小金井公園のアトラク練習の両立に励んだ高校1年生の夏休み、夜遅くまで語り明かした高校2年生の浜名湖移動教室、「武蔵大好き」という思いで迎えた高校3年生の卒業式、語り始めればきりがありません。高校時代に戻り、皆で大いに盛り上がりましょう。

51回生幹事一同

クラス会・同期会だより

41回生 I 組クラス会開催

秋晴れの2018年11月11日、新宿の「音音 新宿センタービル店」にてクラス会を開きました。卒業から30年が過ぎましたが、担任の大北朝子先生も出席され、25名の参加がありました。



笑顔は高校生のころのまま、元気に集まりました！

長い間会わなくても昔の面影が感じられ、一瞬で高校生の頃にもどれるのは同窓会の醍醐味です。それでも、近況報告ではそれぞれの凝縮された人生が伝わり、年月の長さを感じずにはられません。お元気に参加された先生のお話に耳を傾け、大いに盛り上がりました。

後半は席の移動も活発になり笑い声が絶えず、皆さんとても楽しんでおられる様子でした。偶然近くに住んでいる、仕事や趣味で会っていたかもしれないといった話もあり、未来に繋がる話も生まれていたようです。今後もぜひ継続しようという声が多く、コンスタントに会を開く予定です。

4年ぶりの合同クラス会《Ⅲ》 32回D組

当初は妄想級チャレンジだった当該企画も、3度目にしてようやく定番定着感を得ました。

旧くて新しきご縁がこの歳で紡がれる格別感は何にも替え難く、ハードルは高いも開催絶対お奨めです。まずは全クラス統合幹事会が確立できれば、あとは夢の実現を信じる幹事諸氏の強い意志と武蔵生 default の実務遂行力発揮で GOAL は自ずと見えてくるはず。

そもそもは個性が集結した素晴らしき高校に同時期に居ながら巡り会えぬままの縁を放置する勿体なさ

を打破したい衝動に駆られたのが動機であり、幹事一同は「全来場者に100%満足を」の slogan の許に毎回完全燃焼です。

I / II を13年・14年に連続開催し、次回IVは還暦後の2022年開催決定済み。毎回全力で企画熟考し、満足度の前回越えを必達目標に少しでも多くの同期生と幸福感シェアできるよう『32期合同クラス会』は弛まぬ進化を以て今後も継続開催予定です。



2018.10.27 吉祥寺第一ホテルにて

30回生ホームカミングデイ報告

●ただただ楽しいひとときでした。40年ぶりの再会。一瞬「だれ?」、次の瞬間大口開けて「あー!!」やら「きゃー!!」やら歓声が上がります。会えばすぐにわかると思っていたのに、40年という長い年月が過ぎたことを感じます。けれどもすぐに、昨日まで会っていたかのように話が弾みます。友っていいなあ。何かで繋がっている安心感がありました。

今回、卒業時に決まっていた同窓会幹事をさせていただきました。40年間何もしていなかったのも、無事に果たせてほっとしています。一緒に幹事をした皆さんに感謝です。

同期の幹事会は、在学中はクラスが違い、話をする機会がなかった方も話をする事ができ、これもまた楽しい会となりました。 (30 E)

●卒業から40年、還暦を目前にして100名を超える同期生と一堂に会すことが出来たのは、「あー、楽しかった」の一言に尽きる。

偉大なる地球の引力と代謝低下による経時変化に抗い様はないとは言え、一目で「おー、元気そうだな」とタイムマシンから降りたかのような再会が多数あったのは、感激というより安堵に近いものだったのかも

しれない。朋は遠方から来なくてもまた楽しからずや、である。諸兄、また近々にお目にかかりましょう。

(30 D ■■■■■)

● 30 回生のホームカミングデイは卒業後 40 年という節目の年で、恩師吉本先生（旧姓 高島先生）にもご出席いただき、興奮と歓喜の中で始まりました。

私は 3 年前まで長く東京を離れていたこともあり、お会いするのは卒業以来の友人がほとんどでした。しかし名札を見るまでは分からなかった友人も、高校時代はあまり話をした記憶がなかった友人も、もちろん親しかった友人も、当時の面影を辿ると懐かしい思いで一気に時が埋まり、感動と感慨のひとつきを過ごしました。そして、短い時間では語りつくせない仲間たちの多くの努力や葛藤、また喜び等があったことは想像に難くなく、一人ひとりにエールを送りたい気持ちで一杯になりました。また、明日からの自分にも皆さまから勇気と元気をいただいた時間でした。

(30 A ■■■■■)



50回生ホームカミングデイ報告

当日はたくさんの同期が集結しました。お越しいただいた先生方、何回も集まって企画を練って準備し、広範囲に呼びかけ、当日の受付を懸命に対応して下さった各クラス幹事の皆さん、当日来られなくても呼びかけに多大な協力を頂いた同期の方々、当日の進行にこちらの企画を快く受け入れて頂いた 30 回生の皆さん、本当にありがとうございました。

50 人ほどが集まったホームカミングデイでは、会話が途切れることなく進行し、先生方も交えて十分楽しい時間を過ごせて満足していました。そして、その倍の人数が集った第 3 部同期会は、開始前から始まっていた懐かしい会話の熱気がさらに大きくなり、受付から会場に入った瞬間のパッションに戸惑いを覚えるほどでした。

今後も 50 回生同士の交流は広く続いてゆくと思います。そのきっかけに今回の同期会が役割を果たせたのだとすれば嬉しいです。

(50 回 B 組 ■■■■■)



同窓生 information

都立武蔵同窓会海外支部会@New York

参加者は 80 年卒 ■■■■■ さん、87 年卒 ■■■■■ さん、91 年卒 ■■■■■ さん、96 年卒 ■■■■■ くん、同じく ■■■■■ の 5 人。海外支部会としては、これまでで最大の人数が集まりました。祖国から離れている土地柄も手伝ってか、ほとんどの人が初対面かつ世代が離れているのにも関わらず、そんなことは全く感じないほどいろいろな話に花が咲き、懐かしき学舎のことや地元のローカルな話ができる幸せに浸りました。今後も海外支部ホームページの充実に取り組みたいと考えています。なお、次年度支部長は清水 保が引き継ぎます。

(48 回 F 組 ■■■■■)

エボラ出血熱治療薬開発に向けて

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター教授としてエボラウイルス等の研究をしている高田礼人さん(39 回 F 組)が、いよいよエボラ出血熱の治療薬開発に向けての第一歩を踏み出しました。外注する「薬物動態試験」経費を調達すべく、本年 2 月～3 月にクラウドファンディングによる支援を求めました。これについては同窓会ホームページでも紹介したところですが、3 月 29 日の締め切りまでに目標額を大きく上回ったようで安堵しました。同窓会としては気持ちばかりですが、今後も応援してまいりたいと存じます。

クラブ活動OB・OG会

陸上部OB・OG会を開催しました (36回生F組)

「え〜っ、変わってないな〜!」「懐かしい!久し振り!」「・・・(誰だっけ??お互い顔を見合わせて無言)」そこかしこで歓声が沸きあがる中、我が武蔵高校陸上部OB会はスタートしました。

卒業以来35年間、同期メンバーを中心に先輩、後輩も含めた集まりを細々と続けてきましたが、今回名幹事(36回生)の声掛けもあり、一念発起し皆で大々的なOB会を企画し、34回生~38回生の26名(内1名はなんとアメリカからスカイプで参加)が集いました。

憧れの先輩との再会にトキメキ、昔のマドンナの登場に沸き立ち、高校時代のスライド上映に大笑いする、とても楽しい会となりました。皆名残惜しく、二次会、三次会と深夜まで宴は続きましたが、「今度は〇〇に会いたい」「絶対〇〇さんと呼ばう!」と早くも次回



懐かしい“卒業アルバム撮影”以来の、皆揃っての集合写真

に向けて大いに盛り上がり、再会を誓って散会しました。改めて、いつでも一瞬にして自分を青春真っ只中の高校生に戻してくれる、大切な友人達の素晴らしさを実感した一夜でした。

この記事掲載がきっかけとなり、また更に陸上部OB会の輪が広がり、願わくば現役メンバーとの交流にまで発展し、様々な代の方々にバトン・タスキを繋いで行く事が出来たらと期待しています。

女子ハンドボール部 (40・41・42回生)OG会

吉澤秀明先生と20名が参加したOG会。11月4日(土)、新宿京王プラザホテル スカイラウンジにて、賑やかに華やかに開催した。

「お久しぶりです。〇〇です」「覚えてますよ」「嬉しいです!」と先生のご登場に沸き立つメンバー。校庭の砂にまみれながらボールを投げ合い駆け回っていた私達。当時と一転した先輩後輩との再会に「こんなにおしとやかだったっけ~!」「ますますお綺麗になりましたね!」と、一気に空白が埋まっていく。卒業以来初めてお会いする方々と和むのも容易だった。話は、先生のセカンドキャリアや銘々の挨拶から盛り上がる。席替を行いながら進む会。きっと次回の開催も近いだろう。



笑顔の花と会話の花が、咲き誇りました

イベント報告

第2回都立武蔵高等学校同窓美術展開催

第2回の同窓美術展が武蔵野スイング10Fスカイルームにて、2019年3月13日(水)～17日(日)に開催されました。元母校美術科教員の臼井麻美子先生と教え子の方が中心となった企画に、幅広い年代の卒業生、高校・附属中の美術部、旧職員がご参加。プロから美術の専攻者、愛好者まで渾身の作品が集結。

これからも、より多くの方が参加を目指し、もっと大勢の方にご覧いただきたいと感じる、素敵な美術展覧会でした。



絵画、彫刻、工芸、写真など
バラエティ豊かな作品が集まりました

出展者と作品

氏名	卒業年度	作品	氏名	卒業年度	作品
[Redacted content]					



多くのお客様でにぎわう会場です

「この指と一まれ」式のミニクラブ活動 第5弾 “日本橋クルーズ&浜離宮散策”に参加して

2018年11月12日、12回～50回生18名は日本橋船着場に集合。乗船前からワクワク感が一杯。ニコニコマークのステッカーを付け、集合写真撮影後乗船。幾つもの橋をくぐり抜け、船長さんの説明を聴きながらのクルーズは穏やかな秋の日射しと船べりの少し肌寒い風と共に懐かしさと新しい発見がたくさん素晴らしいひとときでした。昼食は築地場外市場にて握り寿司。美味しくってあつと言う間に完食！

浜離宮ではガイドさんと紅葉の庭園散策。薄暮の頃茶屋にて抹茶と生菓子で一休み。閉園放送で解散となりました。

汐留での二次会は皆さんの近況から超ローカルな

話、時々タイムスリップする先輩方のお話と話題の尽きない心地よい時間でした。私は2度目のミニクラブ参加、同期不在でしたが「高校時代出会えなかった先輩後輩と世代を超えて知り合い楽しむ」クラブの趣旨を満喫したとても楽しい一日となりました。

27回C組



表紙によせて

作者紹介 まつだ みちこ さん(21回生E組)



革に出会いその素材としての面白さに、もっと革のことを知りたいと革の技法を勉強していましたが、中国の青銅器展を見たのがきっかけで立体作品を作り始めました。その後、いろいろな作品を作るうちに表紙のような動きのある作品を作るようになりました。15年ほど前からアメリカで行われるインターナショナルのコンテストに出品するようになり、昨年、今までの実績でアジア人としては初めてのLIFETIME ACHIEVEMENTという賞を頂きました。この賞に恥じないようにこれからも精進していきたいと思っています。

略歴

- 個 展 1980年第1回開催 以後各地にて開催 2019年現在33回
東急吉祥寺店美術サロン、八ヶ岳高原ロッジ・アートサロン、ギャラリー陶華(静岡)、
白光美術館(群馬)、西利ギャラリー(京都)、ギャラリーくわみつ 他
- 受 賞 日本革工芸展、一染展、インターナショナル日本れざ-あ-と展
IFoLG(International Leather Competition) World Leather Debut
※IFoLGで2010年・2011年・2017年の3年トップのBest of Showを受賞。2018年
LIFETIME ACHIEVEMENT 受賞。
- 招待出品 レザーアート日本展、LEDER95オランダ展
- 著 書 革 花のファンタジーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ホームページ <https://leather-art.tokyo>

平成31年度 武蔵高等学校・附属中学校 異動者名簿

卒業生総数 25,828名 住所不明者・物故者 9,726名